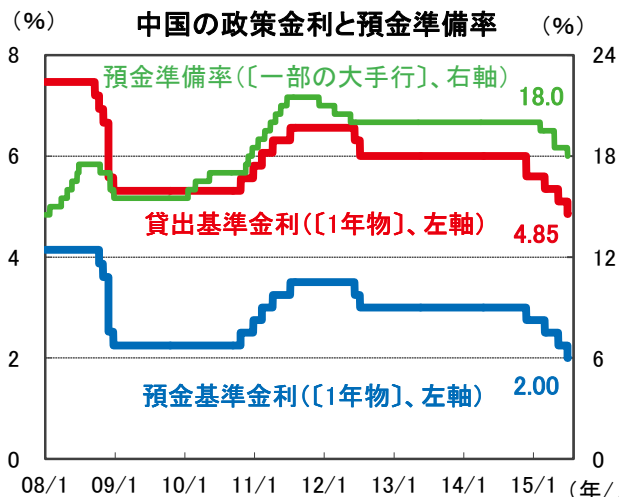


今日のトピック

中国は追加金融緩和、景気減速と株価下落に対応

ポイント1 政策金利、預金準備率ともに引き下げ 景気を下支え

- 中国人民銀行(中央銀行)は27日、政策金利である預金と貸出の基準金利(期間1年)を28日からともに0.25%引き下げ、それぞれ、2.00%、4.85%とすると発表しました。さらに、一部の銀行の預金準備率も0.5%引き下げるとしました。
- 今回の引き下げは、預貸基準金利が昨年11月以来で4回目、預金準備率は同じく3回目です。企業の資金調達コスト軽減などにより、景気の下支えを狙ったと見られます。



(注) データは2008年1月1日～2015年6月29日。グラフ中の数値は直近の値。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 株式市場は大幅下落 ギリシャ不安も拍車

- 上海総合指数は、26日までの2週間で約▲19%下落していました。これまでの上昇に対する高値警戒感に加え、信用取引規制の強化や相次ぐ新規株式公開(IPO)による需給悪化懸念などが要因です。今回の金融緩和強化は、株式市場下落の経済への影響も意識されたと見られます。
- 香港で取引されるハンセンH株指数は、本土市場下落の影響などから、26日までの2週間で約▲6%下落しました。
- 29日の上海総合指数は、ギリシャのデフォルト懸念の高まりなども影響し、前日比▲3.3%、ハンセンH株指数は同▲3.0%でした。



(注) データは2014年1月2日～2015年6月29日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気テコ入れのため、追加の金融緩和策などが期待される

- 本土株式市場は、当面振幅の大きい不安定な値動きを繰り返しつつ、下値を模索する展開となりそうです。信用取引にからむ返済資金確保のための売り圧力も懸念されます。一方、機関投資家がグローバルに投資する香港市場では、本土市場に連れた動きが想定され、またギリシャ問題などの影響も受けやすいと見られます。
- 足元で中国の景気は引き続き減速していることから、政府は来年から始まる5カ年計画を視野に入れ、景気刺激策を強化すると予想されます。追加の金融緩和や製造業の競争力強化などにより、+7%前後の成長率達成が見込まれます。こうした政策強化は株式市場を下支えすると期待されます。

ここもチェック! 2015年06月23日 最近の指標から見る中国経済(2015年6月)
2015年06月12日 「中国製造2025」で製造強国を目指す(中国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。